

高等学校での地学教育と地理教育

現行の学習指導要領では、高等学校理科科目の履修条件は、「科学と人間生活」2単位と基礎科目4領域から1科目2単位の計4単位を履修するか、または基礎を付した科目2単位を3領域選んで6単位を履修するかのどちらかとなっている。

文部科学省がまとめた2015年度に使用する予定の高校教科書の採択状況のデータ（渡辺, 2015a, b）を用いて、「地学基礎」の履修状況を推定した。必修科目である数学Ⅰの教科書採択数に対する各理科関連科目の割合をみたのが図2-1である。この図から全高校生のおよそ25%が「地学基礎」を履修していると推定される。同様の傾向は、日本学術審議会（2016）の答申でも示されている。「科学と人間生活」でも地学の内容が扱われていることから、約半数の生徒が地学を高等学校で履修していると考えられ、履修者は以前より大幅に増加していると思われる（佐藤, 2003）。また、図2-1から同様の手法で求めた地理A及び地理Bをあわせた全高校生の選択の割合は54%で、高等学校ではおよそ半分の生徒が地理を学習していると思われる。したがって、文系・理系ごとの履修科目の選択傾向から、地形などの自然災害に関する学習は、高等学校では地学と地理を通じて、ほぼ全生徒が学習することが可能であると思われる。



図2-1 数学Ⅰに対する理科及び地理の科目別の教科書採択の割合

引用文献

佐藤昇, 2003: 高等学校での地学教育の現状, 4-10, 科学研究費成果報告書「地学教育の活性化をめざす「情報地学」のカリキュラムとその教材の開発」, 88pp, 大阪府教育センター

日本学術会議, 2016: これからの高校理科教育のあり方, 16pp.

渡辺敦司, 2015a: 15年度高校教科書採択状況—文科省まとめ(上), 内外教育, 6389, 時事通信社, 10-16.

渡辺敦司, 2015b: 15年度高校教科書採択状況—文科省まとめ(中), 内外教育, 6391, 時事通信社, 8-13.